

おじいさんや
おばあさんが
体験した
大切な大切な
お話の数々。

巻頭特集

「平和憲法をよむ」

～日本国憲法を読んでみませんか～

私の戦争体験記	p. 6
私の義母から聞いた戦争体験記	p. 8
戦時下、私の小中学生の頃	p. 9
もう二度と戦争はしないで・・・	p.11
戦争は大切な人をかえらぬ人に	p.13
お聞かせください！ あなたの〈声〉	p.15

私の戦争体験

第
35
集

（キリトリ線）

6 戦争体験者は、高齢となり自分で書かれるのは、困難な方も多いと聞きます。
あなたは、そのみなさまの戦争体験を聞いて、原稿を書くボランティアがあれば、
参加したいと思いますか？ （イ）はい （ロ）いいえ

7 あなたのほかに「私の戦争体験」を読まれた方はおられますか？

（イ）いる （ロ）いない

●それはどなたですか？（イ）配偶者 （ロ）子ども （ハ）孫 （ニ）友人 （ホ）その他
読まれた方の感想があればお聞かせください。

.....

.....

.....

.....

8 「私の戦争体験」〈35集〉をお読みになってのご感想をお聞かせください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

9 最近、平和について考えたことを教えてください。

.....

.....

.....

.....

.....

●これを読んでくれた子どもたちにお聞きします

10 お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんから
戦争体験を聞いたことがありますか。 （イ）ある （ロ）ない

11 「ある」とお答えの方にお聞きします。聞いた体験談を
ご家族やお友達に話したことがありますか。 （イ）ある （ロ）ない

ご協力ありがとうございました。

私の戦争体験記

八尾市 加藤 美子(77歳)

私は1936年生まれです。私の家は八尾の南の端、南に大和川、北には八尾飛行場があり、戦争当時は軍事基地で兵隊さんがたくさんおられました。父は小麦粉の製粉所をしており、兵隊さんの食料を扱っておいりましたので、毎日兵隊さんが小麦粉を取りにきておられました。昭和18年頃より戦争が激しくなり隣組で防空壕を造って、皆で訓練をしておりました。私は小さい胸の中で「大変な事になってきたな」と思いました。

昭和18年に小学校に入学。だんだん空襲が激しくなり学校に行くときも母の作ってくれた防空頭巾をかぶって行くことになりました。両親からは「学校から帰ってくる途中に敵機が来たら、畑か、よその家に入れてもらいや！」とよく言っていてきかされました。戦争がさらに厳しくなった頃、兵隊さんが学校の校舎に入ってきて、勉強をする場所もなくなり、大和川の橋の下で授業をした事もありました。兵隊さんの上の人はお寺や、村の大きな家で宿をとられ、軍刀を下げて馬に乗って歩いておられる姿が目に見え付いておりました。

昭和20年に大阪大空襲があり戦火で皆焼けたされて村に帰ってこられました。堺が空襲になったときは、西の空に焼夷弾が次々と落とされ、防空壕に入っておられず、恐ろしさから南の工場まで行ったとき、西の空が花火の様に真っ赤に染まっていたことは今も心の中に強く残っております。

その頃は、戦争も一番激しい時で大和川の堤防上空より村をめがけて戦闘機が機銃掃射をしてきました。防空壕から出ると弾がたくさん落ちていたものです。軍医さんが宿を借りておられた友達のお宅では、奥様が赤ちゃんをお腹に入れたまま、飛行機の機銃掃射に撃たれて亡くなるという悲しいこともありました。家の壁にも弾の穴が残っていたそうです。村の真ん中にも爆弾が落とされました。私も小さいながら、今日、命があっても明日のことは

まったく分かりませんでした。その頃になると基地から特攻隊といって戦闘機に乗って17、8才の若い青年達が敵地に飛び立って行かれました。父の話によると製粉工場の横に小川が流れて田園風景が広がっておいりましたが、その小川で少年2人が魚を釣っていて「おっちゃん、明日になれば特攻に行くんや。今日最後の釣りや」と言っていたそうです。それを聞いたときは胸が詰まって涙がこぼれました。多くの人達が特攻隊で命を落とされました。

昭和20年8月15日、天皇陛下のお言葉があり、終戦になりましたが、悲しいことよりも本心では子供心に、もうこれで敵機やB29がこないと思うと嬉しい気持ちになったものでした。その夜、酒屋のおじさんがやってきて父に「明日になればアメリカ兵がやってくるから皆、この村から逃げなアカン」と言っていてこられました。父は、「うちはどこへも逃げるところがないからここに居る」といいました。飛行場では兵隊さんが残った飛行機などを燃やしている音が恐ろしく聞こえました。女子供は外に出ない事と言われて不安な夜を過ごしました。あくる日、赤い顔をしたアメリカの兵隊さんがやってきて村の中を歩いたり、家を覗きこんだりして大変恐ろしい思いをしました。私は家の中に隠れていましたが、その兵隊さんは良い人で、子供たちを一行に並べて、飴やチョコレート、チューイングガムをくれました。初めて見る物にびっくりしたものです。今の世の中から思うと想像もつきませんが、食べ物が無かった時代ですから今もわすれることができません。

当時のことを思うと今はあまりにも物が栄えて本来の心を見失っている様に思います。今は、命を賭けて戦争に行って下さった兵隊さんに心からありがとうと合掌したいと思います。

防空壕
敵方の航空機の攻撃から避難するために地下に造られた穴や施設。

防空頭巾
空襲の際に落下物から頭、顔、首筋などを守るための頭巾。頭髪を覆うことで頭髪が燃えるのを防ぐ役割も果たした。

大阪大空襲
1945年(昭和20年)の3月から8月にかけて8回にわたっておこなわれた、大阪市を中心とする地域への無差別爆撃の総称。一般市民1万人以上が死亡したと言われている。

焼夷弾
敵の建造物や陣地などを焼き払うために使用する爆弾や砲弾。中に入っている焼夷剤が燃焼することで対象物を火災に追い込むのが目的で、木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使われた。

機銃掃射
機関銃の銃口を動かしながら、敵をなぎ払うように射撃すること。

B29
アメリカのボーイング社が第二次世界大戦中の完成させた、長距離用爆撃機。日本本土の軍事施設を破壊するとともに、都市に対する無差別爆撃を行い、戦局に大きな影響を与えた。広島と長崎に原子爆弾を投下したのも同機である。



私の義母から聞いた戦争体験記

八尾市 匿名希望

わたしの夫の故郷は、瀬戸内海の小さな島です。結婚以来30年近く、義父母が生活している間は盆正月と帰省するのが当たり前のようになっていました。

いつもは子供や孫でこつた返していたのですが、ある時、みんなが海水浴に行つて義母と2人になった時、義母が突然「S子さん、私は今までだれにも言われなかったけど、8月になると胸がうずくんよ」と話をしました。それによるとあのピカのと、毎日毎日、大小の舟でピカにやられた人が親もとや知人を頼つて何時間もかけて島に避難してきたそうです。舟の中で亡くなる人もいて、又、それぞれの家に避難したり、小学校に避難した人達も毎日のように亡くなったそうです。島には開業医が3人いたそうですが、外傷の手当や栄養注射を打つ位で、どのような治療をするのかもわからず、今でいう対症療法しかなかったようです。義母は当時22歳で結婚前だったので、役場の命令で学校へ看護の手伝いに行かされたようで、なすすべもなく、だんだん弱つて亡くなる人を見るのが本当に辛かったそうです。幸いにも島は直接爆撃を受けたことはなく、自給自足のような生活をしていたので、その人達にも元気な人には食事を、弱っている人にはおかゆ等を食べさせたりすることができ、それが義母の仕事だったそうです。

なかでも一番つらかったのが、亡くなった人を葬儀場へつれていく車が来た時で、その車というのが大八車のような車の上に大きな木箱を積んでその中に遺体を入れて葬儀場へ持つて行くのですが、学校に来た時にはもう何人も遺体が入っていて、その上に入れるのですが、その時のおいがいまでも忘れられないということです。

その木箱を積んだ車のうしろに家族、親せき、友人らがずーっと炎天下を行列してついでいくのを見送ったそうです。

この島は、広島とは戦前戦後共つながりが強く、進学、就職、結婚等、又島にも避難後島民になった人もいて、(ピカの話はタブー)というのが暗黙の了解だったそうです。

でも義母は毎年毎年、胸の中にたまっていたものを、だれかに聞いてほしかったのでしょう。義父母が亡くなりもう数年たつので、おはなししてもよいと思ひ、書かせていただきました。

戦時下、私の小中学生の頃

貝塚市 見學 稔(80歳)

「帝国陸海軍は本8日未明西太平洋において米英軍と戦闘状態に入れり」

この事は、昭和16年(1941)12月8日、貝塚北尋常高等小学校3年生の頃、朝学校へ登校し1時間目の授業に先生が教壇に立つたり聞かされ「これは大変な事になった」と子どもながらに思ったものである。

貝塚北少年団の結成

大北少年団の団員は小学生全員と小学高等科生徒全員で、団長は高等科の生徒である。団旗は濃緑色で、中央に貝塚千古の松葉二葉が黄色に染められていた。団員総数40名ぐらいであつたと思われる。

午後4時頃、団旗を先頭に二列縦隊に並び軍歌を全員で高唱し足並みそろえて大北町会を出発し、中之町の感田神社へと向かう。神社へ着くと、拝殿で団長が「戦地の兵隊さんの武運長久を祈り最敬礼」と言つて、全員最敬礼をした。参拝が終わると、夏の頃なら中之町通りにアイスクャンデー屋があつて、みんなアイスクャンデーを1本ずつ買つて、ワイワイガ

ピカ
フラッシュや閃光を表す擬態語より転じた、広島市・長崎市に投下された原子爆弾の俗称。「ピカドン」とも言つ。



対症療法
病気の原因に対してではなく、その時の症状を軽減するために行われる治療法。痛みに鎮痛剤を与えるなど。

尋常高等小学校

国民学校令が施行される前の学校のうち、明治維新から第二次世界大戦勃発前までに存在した初等教育機関である尋常小学校の教科と、後期初等教育・前期中等教育機関である高等小学校の教科とを一校に併置した小学校。

軍歌

主に、軍隊内で士気を高めるために作られた歌のこと。

武運長久

武人としての命運が長く続くこと。また、出征した兵がいつまでも無事なこと。

2013年8月

ヤガヤ楽しく言って帰ったものであるが、この参拝がいつの頃中止になってしまったかは記憶にない。

小学校5・6年生にもなると、体操の時間には武道・剣道・空手・銃剣術が多く取り入れられるようになり、防空頭巾をかぶって防空演習もやるようになった。

寒中に、1週間ぐらい裸足で登校もした。

中学は、大阪の都島工業中学校に入学と決まったが、米空軍の空襲激しくなり、通学が無理となり、貝塚実業学校に入学したがほとんど勉強できず、英語ABCの活字と単語を少し習っただけで、後は勤労奉仕ばかりであった。

食料増産で校庭の半分ぐらいを島にし、

一、島の肥やしにと2人1組で肥桶を担ぎスコップ1丁をもって貝塚市内にある馬小屋へ

馬糞を拾いに行く(馬によくけられた)道路の馬糞も拾って歩いた。

一、野原に出かけススキを刈り取った

一、島のイモを盗まれないように夜イモ番をする

一、海岸寺山へ行き松の根を掘る

(これは松根油ーシヨウコンユーといって飛行機の燃料)

海岸寺山へ行って松の根を掘っていた天気の良いある日のこと、空襲警報となり空を見上げた。米空軍B29が1機飛来。その時日本空軍の戦闘機1機がB29の横腹に体当たりし、粉々になった。B29は薄煙を吹き、高度を下げつつ和歌山方面へ降下していった。これを見ていた生徒全員はどのように思ったか。一人も声なし。

一、貝塚市内密集家屋疎開のため家屋打ち壊し、屋根瓦は1枚つつ先に手降ろし、家屋を打ち壊す柱は1人1本重い梁は2人で1本。瓦は荒縄で振り分けて、肩で担げるように3枚ずつ後先に縛り、津田北町から海岸寺山へと歩いて運ぶ。真夏のこと故、この作業が毎日続き、一番辛かった。午後3時になると、パン1個くれる。黒に近い色をしている。2つに割ると糸

を引いて、中には黒い大豆のような物が入っていた。「酸っぱい」味がした。

次第に米空軍の空襲が激しくなり、学校からの帰りにも米空軍戦闘機の銃撃を受け、そばの家に飛び込んだこともある。食料の配給も少なくなってきた、いもづるや草も食べる。

食べたい盛りに食べられず、夜寝てみる夢はお菓子の国へ行っている夢ばかりであった。

夏でも防空頭巾をかぶり、着て寝れば汗でべっとり。空襲警報の連続で決へと避難する。

昭和20年(1945)8月15日終戦。

終戦3日後に学校へ行ったが、先生も生徒も誰一人もいなかった。これが、戦争に負けた

日本の姿かと思った。

ああ悲劇の小・中学時代。

もう二度と戦争はしないで…

堺市 福田 タツ子(89歳)

昭和16年12月8日未明戦闘状態に入れり…

昭和12年支那事変勃発に引き続き大東亜戦争になり、国はどうなっているのかな、又どうなるのか不安でした。婦人会の人が贅沢は敵だと言いながら町を練り歩いています。すでに

パーマネントは禁止になり、町内の子供たちは

パーマネントに火がついて 見る見るうちにハゲ頭

ハゲた頭に毛が3本 ああ恥ずかしや恥ずかしや

パーマネントはやめましよう

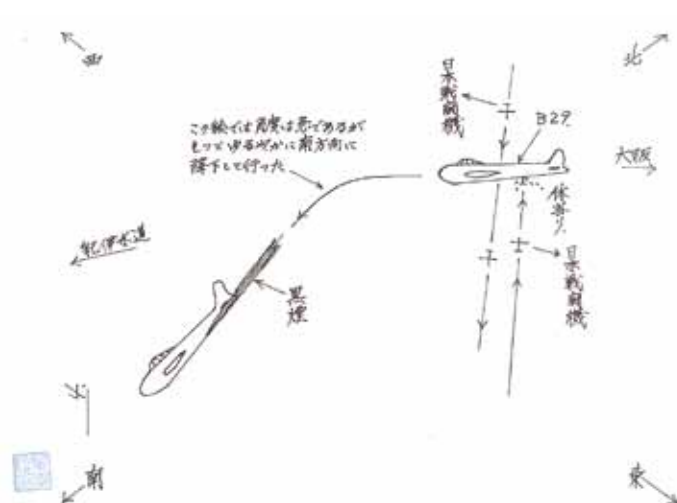
贅沢は敵と言っても贅沢のしようがありません。食料品は僅かばかりの配給、衣類は切符制

勤労奉仕

仕事にはげむことによって、社会や国家のために尽くすこと。戦時中は国の指導により、学校でも行事として授業の中に取り入れられた。

空襲警報

敵軍航空機による空襲を市民に知らせ、被害が出ないよう発令される警報である。ラジオやサイレンなど様々な手段で伝達される。



支那事変

1937年から始まった、日本と中華民国の間で行われた長期間かつ大規模な戦闘。両国とも宣戦布告をしなかったのに「事変」と称する。現在は「日中戦争」と呼ばれる。

大東亜戦争

1941年の開戦から1945年の降伏調印までの日本(大日本帝国)がアメリカ合衆国やイギリス、中華民国などの連合国と行った戦争のこと。日中戦争と併せて「アジア・太平洋戦争」という呼ばれることもある。

2013年8月

で必要な物はありません。家も1枚のタオルを皆で使っていました。母と妹は車で没収されるのを覚悟で買出しに行ってくれていました。又サツマ芋のつるを路のようにゆがき煮物に、葉っぱはゆがき細く刻みわづかなメリケン粉とまぜ、パンのようなダンゴのような、でも私達はそれで飢をしのぎました。何を根拠に贅沢をやめる様に言ったのでしょうか。空襲警報が頻繁になり、夜は電燈に黒い布をかけ、ひっそり暮らしました。

昼は防空頭巾にモンペ姿でバケツリレー消火訓練町へ出れば千人針の布を持った方達。御家族に、出征された方がおられるのでしよう。千人針の布の真ん中に、五銭玉(死戦を越えて)、十銭玉(苦戦を越えて)と言う意味で縫いつけてあります。私も武運長久を祈りながら一針一針縫いました。又友達と慰問袋を作り戦場の兵隊さんに送りました。

20年2月27日は、彼から大きな写真と手紙が届きました。

(手紙一部抜筆)

貰い手がなければ帰ったら俺が拾ってやる

「貰い手がなければ俺が拾ってやる

いいし君今靖国の人」

因みに(軍艦大和)に乗っていました。

この手紙が来て間もなく、3月13日大阪大空襲にあい、パラパラ落ちてくる焼夷弾の火の粉を避けながら頭からふとんをかぶり、弟と2人近くの公園の防空壕にげました。弟は明日14日小学校の卒業のため疎開先から帰って来ており、前日から熱を出し2人でねていました。

又姉が1月に息子を亡くし家へ帰ってきており、同じく戦火にいました。義兄が徴用で呉に行っており、姉も広島に行くと言うので止めませんでした。まさかあんな恐

ろしい原爆が落とされるとは夢にも思いませんでした。姉は死に行ったようなものです。両親は生前それをずっと悔やんでいました。

何のために戦争をするのかな。この戦争は何だったのかな。こんなみじめな辛い苦しい生活は、子供孫達にはさせたくない。私達で終わりにしてください。うそのような今の平和な生活。もう二度と戦争はしないで・・・。

原爆も原発も根は同じ核物質です。再び過ちをおこさないで。

戦争は大切な人をかえらぬ人に

羽曳野市

高井

君子(90歳)

私は、大正12年3月4日生まれで、現在90歳になります。昭和4年の1年生から、昭和10年の6年生卒業まで、だんだんと戦争にすすんで行くように思えて日を送るうちに、20代になってくると、あちらこちらの家から兵隊に行く人が目立ってきました。いとも赤紙が来て行きましたが、その内に戦死の報せがきて、叔父さんは箱の中には紙だけが入っていたと泣いていました。私も軍需工場で働いていましたが、プレスで指の先2本を落としました。他の人も2本・3本と指を落としたりしました。がんばっているうちに夕方になると、サーチライトが夜空に何本も光り、晝間は防空壕に入って、空襲解除になるとまた仕事にかかり、日々に食料も乏しくなっていました。兄が風邪をこじらせて手術をした時には、食料事情は底をついた形で、弱る一方で、とうとう亡くなりました。また工場の係長の人が杭全の方に空襲の消火に行つて、油脂焼夷弾と知らずにほうきではいていておこられたと言っていたので、これからどうなっていくんだらうと皆不安になりました。そのうちに配給も少

千人針

第二次世界大戦まで日本でさかんに行われた、多くの女性が一枚の布に糸を縫い付けて結び目を作る祈念の手法、および出来上がったお守りのこと。武運長久、つまり兵士の戦場での幸運を祈る民間信仰である。



赤紙

戦時中の日本の兵役制度において、在郷軍人を兵として召集するために用いられた命令書である召集令状。紙の色が赤かったため、俗に「赤紙」と呼ばれていた。

油脂焼夷弾

焼夷剤に、ゼリー状にしたガソリンを主成分とするものを用いた焼夷弾。

「私の戦争体験」〈第35集〉アンケート提出のおねがい

● 配送の担当者またはお店にご提出ください ●

お名前	フリガナ		
電話	()	市町村名	
年齢	☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80代 ☐ その他()		

※お預かりいたしました個人情報は、今後の戦争体験集のみに活用させていただきます。

アンケートにおこたえください

1 「私の戦争体験」をお読みいただきましたか。

(イ) 毎年読んでいる (ロ) 今回初めて読んだ (ハ) 読んだことはない

2 今回の第35集を読まれて一番心に残ったのは

(イ) 巻頭特集 (ロ) 戦争体験 (ハ) その他

理由:

3 今年の「私の戦争体験」は読みやすかったですか。

(イ) 読みやすい (ロ) 読みにくい

理由:

4 あなたの戦争体験はありますか。

(イ) ある (ロ) ない

● (イ)ある とお答えいただいた方にお聞きします。戦争体験を寄稿していただけますか?

(イ) はい (ロ) いいえ (ハ) その他()

5 「私の戦争体験」の発行を今後も続けていきたいと思っています。

体験をお話しいただける方をご紹介します。戦争体験を書いていただける方のお名前・連絡先など

お名前		年齢		連絡先	〒 -
					TEL. ()

あなたとの関係・続柄をお書きください()

裏面につづく

なくなっていく、着物も2枚、3枚と米に変わっていききました。夜になるとサーチライトが夜空を照らしておちつかず、そのうちに警防団の人が灯りがもれてあるとどなられたので、外に出てみると、西の空が真っ赤に燃えていました。これが3月10日の大阪大空襲でした。そして晝間は塹壕に入って解除になると、また仕事を続けているうちに、交番所から巡査がコンクリートの塹壕が出来たからと言ってくださったので、よかったと一安心している。と、2、3日後に終戦になりました。戦争は、大切な家の働き手を赤紙で国のために、あの人も、あの人も、かえらぬ人になっていきました。もう二度とこのような悲しい事がないようにねがうばかりです。このような事は体けんしなければならぬ事です。どうぞおねがいします、おねがいします。

私は桑津町に住んでいましたが、近くに学校があって、兵営になっていて、朝夕ラッパの音が響いていました。また美章園の駅に1屯爆弾が落とされて、駅の横にあった工場は、落下傘の工場だったからとあとで聞きました。兄は青年団にいましたので、兵隊さんと一緒に信太山の兵隊へ強行軍をしました。その時風邪をひいていたのがこじれて肺炎をおこし、入院した時には最悪の食料難で、くすりもなく、体力が弱るばかりで無念の死をとげました。そうしている中に、配給も日に日にへっていく、これから先を案じている中に、やっと終戦になりましたが、配給がへるばかりで、そのうちに、外米が配給されてきたり、衣料キップが下されましたが、少しもやくにたちませんでした。

いろいろと書きたい事もありますが、年とともに忘れていく事が多くなり、このへんで筆をおきます。

私の戦争体験を読んで頂ける事はうれしく思います。最後に読んでくださる皆様方に、よろしくお願ひいたします。



兵営
軍人が集団で居住するところ。兵舎のある地域。軍営。

塹壕
戦場において、歩兵が銃弾・砲撃を避けるために地面に掘られた壕。